



平成24年度入学生 300人がキャンパス入り

積極的に考え方学び通し 豊かな人間性を養おう

春寒の空も式典後には風雨も上がり晴れ、新入生たちは各サークルの歓迎の長い列を通り抜け、熱い勧誘を受けながら校舎に入り、新たな決意で早速ガイダンスに臨みました。

晴れやかに胸膨らます新入生に、平山征夫学長は式辞で「学問に興味を持ち、考え、遊び、また深く考え、多くの友人と交流し、豊かな人間性を養ってほしい。自由にそして積極的に、青春の情熱を燃やせ」と激励しました。また関根秀樹理事長も祝辞で「若さと瑞々しい感性で、新しい知識や学問を受け入れ、国際的な視

本校体育館で行われ新入生300人（情報文化学科131人・編入生1人、情報システム学科168人）が、みずき野キャンパスでの学生生活をスタートさせました。

野を広げてほしい」と充実した学生生活を期待しました。

在学生を代表し情報システム学科の佐藤翔さんが「大学生生活は社会に出る前の、つかの間の4年間。勉学に課外活動にも積極的に参加し、友達と遊び、何事にも恐れず、楽しいキャンバスライフを送りましょう」と歓迎の辞を贈り、新入生代表の情報システム学科の寶輪新菜さんが「情報化、国際化社会に乗り遅れないための知識と技術を修得し、仲間と助言し合い、真剣に学びます」と応えました。派遣留学・海外夏期セミナー提携5大学も祝福ビデオメッセージで新入生を激励し、交流を呼び掛けました。



CONTENTS

2・3面
入学式特集
学長式辞
理事長祝辞
新入生代表・私の抱負

4・5面

在学生代表・歓迎の言葉
学部長・両学科長の激励

新任教員紹介4人
退職教員あいさつ

6・7面

派遣留学・海外夏期セミナー帰国報告会
オープンキャンパス案内

8面

卒業にあたって・思い出と抱負
教員の活動（2011年下半期、一部再録）
湧源・編集後記に代えて

9面～12面

平成23年度卒業式特集
学長告辭
理事長祝辞
JABEE認定12人に修了証書
卒業生代表答辞
式典スナップ 特別表彰

い合わせください。逆に授業を続けて欠席するような時には、こちらから連絡を取らせてもらいます。また、不幸にして家庭の事情変化で勉学の継続が難しくなった場合も相談ください。いろいろな制度対応も用意されています。大学で学びたいというお子さんの希望を続けられるようにしたいと考えています。学生諸君もそうした困難にぶつかった際にも、勉学意欲を失うことなく、一緒に悩み相談に乗ってくれる人たち

祝 辞



学校法人 新潟平成学院
理事長 関根 秀樹

貪欲に新しいものを吸収し

視野を広げ地域の核となれ

本日、新潟国際情報大学にご入学された皆さん、誠におめでとうございます。

大学の設置母体であります学校法人新潟平成学院理事長として、心よりお祝いと歓迎のご挨拶をいたします。

皆さんには、小・中・高校時代を通じてお一人お一人それに、いろいろなことを挑戦され、さまざまな経験をされてきたと思いますが、本学のキャンパスの仲間入りをされたこれからは、ぜひともよりいつそく貪欲に、新しいものを吸収してください。

諸国交流の拠点化を目指し、発展していくために必要な戦力となり、同時に地域文化の向上と拡充に寄与する人材を育てるることを目的として、1994年（平成6年）に本学を創設・開学いたしました。

がいることを忘れずに、窓口をたたいてください。退学せず学び続けることが、将来振り返った時、大きな力となつたケースはいくつも見てきます。入学式には相応しくないかもしれませんのが最初にお願いしておきなくて、あえてお話ししました。

皆さんに大学になられたこの時代は、大きく変革しようとしている時です。世界も日本も地球という惑星に90億人の人が

もうすぐ建学20年の節目の年を迎えます。人間でいえば20歳の成人式、大人の仲間入りです。皆さんもほぼ同年齢、何ものにも替え難い若さと瑞々しい感覚は、新しい知識や学問を受け入れ、国際的な視野を広げ、身に付けるのにうつてつけの年代です。そのために求められるのは、ひたむき柔軟な心だと思います。

よく学び、よく遊びと申しますが、まず何よりも懸命に学んでいただきたい。大学は学びの場です。本学には、一般教養・専門分野それに皆さんの期待に応えることのできる教職員がおります。皆さんには、本や文献を読み、良き師の教えをしつかりと吸収し、このキャンパスで出会った新たな友人たちと一緒に切磋琢磨して自らを鍛えてください。もちろん折にふれての息抜きも必要です。スポーツや文化、クラブ活動などを通じて青春を大いに楽しんでほしいと思っています。

学び、遊び、何事も恐れず
楽しいキャンパスライフを



在学生代表 情報システム学科
佐藤 翔

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。また、ご臨席いただきました多数のご父母の皆さま、おめでとうございます。みなさんの入学を、在学生一同、心から歓迎いたします。

新入生の皆さんは今日から新潟国際情報大学の学生として4年間の大学生活を送ることとなります。本学には情報文化学科と情報システム学科があり、両学科ともに情報社会を生きる私たちにとって有益な知識を与えてくれます。また、皆さんは大学に入学されるにあたつて「生徒」というくくりから外れ「学生」というものになります。

私たち在学生は「生徒」と「学生」の意識しながら、大学4年間の中で学問、課外活動に積極的に参加して自己を充実させた学生生活を送っています。

皆さんには、これから始まる大学生活について、いろいろと期待や不安があると思います。個人差はありますが、大学4年間は、「あつ」という間に過ぎてしまいます。希望もあれば悩みもあるかもしれません。自分から動かなければ充実した大学生活は送れません。充実した大学生活のために、私は皆さんに大学4年間で獲得していくべきだときたいことがあります。

一つ目は、積極性です。外部から受信し続けていくのは昨日までの自分とし、自分から発信もしていけるような人間になつてほしいということです。情報社会に生活をする我々は、ただボーッとしているだけで

社会人に最も近い存在であります。義務教育はとつくる昔に終え、皆さんはすでに大人のくくりにあります。常に他人を気遣い、良識を持つた誠実な人間になつていただきたいと思います。

また本学には学生だけではなく、素晴らしい教職員の方々がいます。人生経験豊富な教職員の方々とぜひ積極的に関わつていただきたいと思います。

社会に出る前の、つかの間の4年間です。大学以外にも多くの人々と交流を図り、自分自身というものをもう一度見つめ直していくことをおすすめします。

勉学に励み、友達と遊び、何事も恐れず節度を持つて実行することが充実した楽しいキャンパスライフへの近道だと思います。

皆さんが本学に入学されたことを心から祝い、これから的生活が充実したものになることを願つて、歓迎の言葉とさせていただきます。

或るパン職人に思う

本学の開学以来、非常勤講師として、また平成19年からは特任教授として、教鞭をとることができたことを厚く感謝申し上げます。今年の3月末をもちまして、定年退職いたしますが、本学を去るにあたり、本

満足したら、そこで進歩は止ま

京に負けないおいしさ。東洋人には、地元の人たちにアンを食べさせたいといふA氏の信条は「決して満足しない」ということであります。満足したら、そこで進歩は止まるからだ。そうなります。これはこそ職人気質の真骨頂というべきものだと思います。

N U I S を去るにあたつて

満足したら、
そこで進歩は止まる

紙面をお借りして一言ご挨拶申し上げます。2月末のNHKの「プロフェッショナル」という番組で、飛騨高山のパン職人A氏（51歳）が取り上げられていました。今年の大雪の中、お店は大

京に負けないおなじに
A氏の信条は「決して満足しない」ということで、
す。満足したら、そこで進歩は止まるからだそう
です。これこそ職人気質の真骨頂というべきもの
だと思います。

内田 亨 情報システム学科 教授

担当科目 経営と組織、経営と情報、企業と経済
研究分野 組織論をベースにした日仏における営利・非営利組織を対象に、
①常管理論 ②ガバナンス論 ③フューチャリズム理論

①書類説明、②ハノイ会議、③スクールホールド会議。
1990年8月～1993年7月 ライオン歯科材株式会社大阪本店販売促進課課員
1994年3月～1995年1月 日本ロシュ株式会社試薬本部福岡支店営業課課員
1995年2月～1998年7月 日本ロシュ株式会社試薬本部PCR(遺伝子診断) ビジネスユニット福岡支店Sales Planning
2004年10月～2005年3月 リヨン経営大学非常勤講師
2007年4月～2012年3月 西武立理士学セービング実習学部准教授

藤田 晴啓 情報システム学科 教授

担当科目 地域情報システム、社会情報システム、地域統計
研究分野 (1)地理情報システム、自律分散GISによる歴史・観光・考古データベース
(2)社会情報システム、GISの地図表示技術、空間問題における実証的研究

(2)社会情報システム、GHG排出量見積もりシステム、空間認識と選好性研究
路 修
1989年4月 農林水産省草地試験場研究員(官)、土地情報システム研究
1992年3月 国際農林水産業研究センター主任研究官、乾燥地保全研究
1992年3月 Int.Cent.Agric.Res. in Dry Areas, Senior Researcher(併任) (国際乾燥地農業研究センター上席研究者 乾燥地情報システム)
1995年10月 農林水産省四国農業試験場企画連絡室、防災システム研究
2000年7月 日本国際協力システム業務第一部
2003年4月 東洋大学国際地域学部国際問題学科教壇(地理情報システム)

伊村 知子 情報システム学科 講師

担当科目	認知科学、心理と行動、統計と情報
研究分野	(1)空間認知能力の比較認知発達 (2)視覚機能の生態学的制約
略歴	2007年4月 日本学術振興会特別研究员(PD) 2009年5月 京都大学霊長類研究所比較認知発達(ペネッセコードレーションシヨン)研究部門、特定助教 2011年10月京都大学霊長類研究所思考言語分野、特定助教

高橋 正平 情報システム学科 特任教授

担当科目	英語
研究分野	十七世紀イギリス文学
略歴	1971年4月 東北薬科大学講師 1982年4月 新潟大学教養部助教授 1994年4月 新潟大学法学部教授 2002年4月 新潟大学人文学部教授 2011年1月 新潟大学人文学系助教授

「生まれ変わる」気概で学ぼう



越智 敏夫

連語というほど一般的ではないものの、決まり文句のように単語がセツトになつている表現がある。その連関には理由があるようだ、実は根拠が希薄なものも多い。たとえば「悪魔のようになつたのに狡猾」という表現。なぜか「天使のように狡猾」とは言わない。

これは私たちが共有する無意識の価値観の反映なのだろうが、それが良いか悪いかといふことは別問題である。悪魔は人間ではないと考えれば、彼らが狡猾だと批判されても問題はないかもしれない。しかし、たとえ常に悪魔が黒で表現される社会が、黒人現され、天使が白で表れていたとしたらどうだろ。なぜいつも自分の肌の色が悪い集団の象徴として語られるの

好奇心だらけの4年間を過ごせ

学生につくべき形容詞とは何かを考えていって、このような文章になつたのだけれど、社会の中で多くの疑問をもち、それらを次々に教員にぶつけるのも学生の義務である。たとえばサッカー日本代表である。男のほうはサムライという武装した権力者集団の呼称がつき、女にはナデシコという屈辱的忍従を象徴する植物名がつく。これは日本のサッカ界とマスメディアの犯罪的な思考停止状態を示しているといえるが、この呼称を使用する、この呼称を使用する義務は誰にもない。どうして日本社会はこうのことになってしまったのか。

大学生につくべき形容詞は好奇心だと思つてゐる。好奇心だらけの4年間を過ごしても

つています。これまでのよ

うに前例に従つて生きるだけでは、お互に幸せな社会をつくることが難しくなりました。加えて、現代の危機がグローバルな特徴をもち、世界中が深くつながり存在していることも再

かり確認し、進むべき方向を見定める。大学で学ぶ最大の意義と特権はそこにある

代だからこそ、皆さんはぜひじっくりと腰を落ち着けて、根源からものを考えてみてください。大海の荒波の中でも、自分の位置をしつけられました。

このように本学科では、IT力、経営力はもちろんのこと、実学を通して、人の会話力を身につけることができます。

本学では、このようなグローバルな危機の時代に、それを見定め、柔軟かつたくましく生きていくことのできる本

定め、柔軟かつたくましく生きていくことのできる本物の知性と教養を身につけるための機会がたくさんあります。

また、日本技術者教育認定機構（JABE）の認証を受けた国際基準の教育課程を提供しています。所

により、国家資格である技

術士補の資格を申請および

登録により取得することができます。

一方、英語力と海外文化に触れる機会として、カナダ夏期留学も経験できます。カナダ留学では現地企

業訪問、語学研修が体験で

きます。

このように、企業が求め

るグローバル人材の要件を

本学科が網羅していると

いつても過言ではありません。

思う存分本学での学生

生活をエンジョイしてい

ただきたい所存です。



白井 健二

情報システム学科長

情報システム学科は、ITと経営という2本柱に向けて大きく前進しようとっています。IT分野で修得できる能力には、コンピュータを活用したシステムの構築はもちろん、コンピュータを使いこなす能力、また、ソフトウェアに習熟で

一方、経営に関しては、どこの世界でも「経営」と名のつく仕事があります。「人・もの・カネ」のマネジメントに関わる仕事です。授業を

一方、経営に関しては、どこの世界でも「経営」と名のつく仕事があります。「人・もの・カネ」のマネジメントに関わる仕事です。授業を

一方、英語力と海外文化に触れる機会として、カナダ夏期留学も経験できます。カナダ留学では現地企業訪問、語学研修が体験できます。

このように、企業が求め

るグローバル人材の要件を

本学科が網羅していると

いつても過言ではありません。

思う存分本学での学生

生活をエンジョイしてい

ただきたい所存です。

専門力で社会に貢献しよう



白井 健二

情報システム学科長

情報システム学科は、ITと経営という2本柱に向けて大きく前進しようとします。IT分野で修得できる能力には、コンピュータを活用したシステムの構築はもちろん、コンピュータを使いこなす能力、また、ソフトウェアに習熟で

一方、経営に関しては、どこの世界でも「経営」と名のつく仕事があります。「人・もの・カネ」のマネジメントに関わる仕事です。授業を

一方、英語力と海外文化に触れる機会として、カナダ夏期留学も経験できます。カナダ留学では現地企業訪問、語学研修が体験できます。

このように、企業が求め

るグローバル人材の要件を

本学科が網羅していると

いつても過言ではありません。

思う存分本学での学生

生活をエンジョイしてい

ただきたい所存です。



佐々木 寛

新潟国際情報大学へようこそ。皆さんのが入学時に抱いているたくさんの夢を、ぜひ本学で一つ一つ実現してください。

つています。これまでのように前例に従つて生きるだけではなく、お互いに幸せな社会をつくることが難しくなりました。加えて、現代の危機がグローバルな特徴をもち、世界中が深くつながり存在していることも再認識されました。

かり確認し、進むべき方向を見定める。大学で学ぶ最大の意義と特権はそこにある

からです。

このように本学科では、

ひじっくりと腰を落ち着けて、根源からものを考えてみてください。大海の荒波の中でも、自分の位置をしつけられました。

このように本学科では、</

人生を変えた貴重な体験

自信をつけ積極的になつた初めての海外生活：昨年度の派遣留学（情報文化学科）と海外夏期セミナー（情報システム学科）の帰国報告会が1月25日、みずき野本校の国際交流センターで開かれ、5カ国のコースの代表から成長を実感し

た力強い体験が
生は55人。貴重
たたえ合い、両
験を人生の進路
が贈られました

報告されました。今回の参加学科長ら教職員からは、留学体験を語り合い互いに健闘を期待の言葉に生かしてほしいと期待の言葉。

その街とは言ひ難かつたので、すが、それ以上に人々が温かく、口音をはじめとした中国人、韓国人、インドネシア人など、日本にいたら知り合えなかつたよ

思えるようになつたことだ。」
そのように思わせてくれた友人
たちとの出会いにとても感謝して
いるし、これから先も一生開
かれていくたいと思っています。

留学・海外セミナー帰国報告会開く

特に私が一番楽しかったことは、実践的な授業と多くの学生との交流でした。歴史学院で中国文化・歴史について、漢語学院で中国語を勉強しました。歴史学院では中日関係・社会訪査・中国民族文化・太極拳などの授業がありました。社会訪査では北京市内にある円明園・十三陵・抗日戦争記念館などの史跡、また北京オリンピックの会場となつた競技場や公園について、背景や由来を学習しながら見学することができました。太極拳では北京師範大学の学生が先生として私たちに指導してくれました。漢語学院では会話・書き取りの3教科。もちろんどの授業も中国語で行われ、理

踊りカラオケにも挑戦
楽しい体験ぜひ後輩も

授業内容は皆で楽しく遊びながら韓国語を覚えるというような時間もありました。だんだんとクラスの皆で会話ができるようになつて、雪岳山（ソラクサン）に1泊2日に旅行にいつた後はとても仲良くなりました。授業が終わつた後、皆で一緒に食事にいったり遊びに行つたりとプライベートでも一緒になる

文化や歴史や考え方も
たくさんの発見と驚き

北 紗子

中国コース18人は9月10日から4ヶ月間、北京師範大学に留学してきました。時間の経過とともにゆつくりでしたが、北京の環境に慣れることができ、次第に気候・食事・言葉・生活習慣・交通情況など一つ一つが受け入れられるようになり、私の留学生生活は楽しいものへと変化していきました。特に私が一番楽しかったことは、実践的な授業と多くの学生との交流でした。歴史学院で中國文化・歴史について、漢語学院で中国語を勉強しました。歴史学院では中日関係・社会学訪査調査で

解するのがとても大変でした。北京師範大学ではさまざまなかつて、他の地域の留学生も多くいます。国籍に関係なく振り分けられるため多くの国の学生と交流が持てます。私のクラスには日本人以外に韓国、インドネシア、ベトナム、ロシア、アメリカ、イタリアの学生いました。最初のころは自分がことで精いっぱいでしたが、授業を理解できるようになつたころからはクラスメイトともコミュニケーションが取れるようになりました。授業ではそれぞれの国習慣や観光地などを紹介し合つたり、休み時間には自分たちの国言語を教え合つたりもしました。放課後にはクラス会をしたり、一緒にご飯を食べに行つたりと、クラスメイトとはかけがえのない思い出をつくることができました。

授業は毎日9時～1時まで「韓国語」の授業をした後、月曜から木曜日の2時～4時までは韓国の歌や映画など、曜日ごとに「韓国文化」についての学習をしました。午前中の授業では国情生2～3人に分かれて他の国から来た学生と一緒に勉

ようになりました。午後の授業は国情生だけの授業でした。「現代韓国事情」という授業では韓国の踊りを踊ったり、楽器を実際に演奏したりしました。「歌」の授業では先輩と一緒にK-POPを聞いたり、カラオケに行つて歌つたりもしました。「映画」の授業は映画館に行つて映画を観るといふとても楽しい内容でした。留学して間もない頃は日本に帰りたいと思つた事もありましたが、また韓国に行つて勉強してきたいと思うようになります。この経験を忘れずに今後も勉学に励んでいきたいと思うし、時間ができたら韓国ででき

それは、ロシア語学校の先生がロシアの文化や歴史をふまえ、どうしてこのような表現を使つかを教えてくれたことや、留学先で知り合った日本人とロシア語の表現について話す機会が多くなったことから、言

中国2—7



情報文化学科2年
吉田 晃也

解するのがとても大変でした。北京師範大学ではさまざまなかつて、中国の学生が在籍しています。アジア圏内の留学生だけではなく、ヨーロッパやアフリカ、その他の地域の留学生も多くいます。国籍に関係なく振り分けられ

ようになりました。午後の授業は国情生だけの授業でした。「現代韓国事情」という授業では韓国の踊りを踊ったり、楽器を実際に演奏したりしました。「歌」の授業では先生と一緒にK-POPを聞听了。

うな、たくさんの友達ができ、いろいろな話を聞き、私のウラジオストクでの生活はとても楽しいものになりました。その中でもやはり、異国で受ける毎日の授業はとても刺激的なものでした。はじめは「こん

刺激的だった異国での授業

私たちが学んできたことは勉強以外にもたくさんあります。そこで私はアメリカ人の友達をたくさんつくることができました。私が住んでいたフランスケンホール4階には、親切な日本人の私にアメリカ人の文化を教えてくれ、宿題まで手伝つてもらいました。その宿題は、アメリカ人に質問をして答えをもらい、サンをもらつてくるというものでした。そんな変わった宿題を出しました。ジエイソンの質問はほぼ毎日のようにあり、ノートとペンを抱え、友達が住んでいる部屋までノックして聞きに回りました。そんな私の宿題を面白がらずに、手伝つてくれた人たちとは今でもフェイスブックで連絡を取っています。

今考えれば、この宿題の苦労は今の生活にも影響していて、同時に、アメリカ人とはどのような人か学ぶことができました。ま

アメリカは私がイギリスでした。でも、その国と全く違うものでした。それは食べ物や文化のほかにも生活習慣や、アメリカ人の気さくな人柄です。ほぼ毎日、寮から教室まで行き来し、クラスの後に宿題をしたり、大学のイベントに参加したり充実した生活を送れました。また、授業は楽しく学び、分かりやすく説明してくれ、苦手であるグラマーの授業には積極的に発言をしました。

号泣して別れた友らと
フェイスブックで連絡



情報文化学科2年
長谷川 妹子

た、フランケン4階に住んでいた。彼女の第一印象はザ・アメリカンガールといった感じで、ハグで私を出迎えてくれました。彼女は二つ年下でしたが私よりずっとしゃべりしゃべりした大人な子です。またイベントや食事に毎回誘つてくれました。年頃の私たちには恋愛トークをし、夜の10時半からはエクササイズを欠かさずやつていきました。今思うとそんなハンナとの大切な思い出は私の宝物です。ハロウィンでの仮想、サンクスギビング、ショッピング、アメリカの生活で共に過ごした時間が一番長いのはハンナです。私がスパゲティを食べたいと言つたら作ってくれ、ハンナの聴く曲が好きだと言つたら、CDまで作つてくれました。だから最後のお別れはとてもつらく、二人で大号泣しました。また会おうと約束しました。

異文化を肌で感じた
自信がついて積極的に
私たちカナダコース4人は、
7月31日～9月4日までの約5
週間、エドモントンに行つてき
ました。カナダに着いて早速カナダド
ルを使ってみようと思い、「T
aco Time」というメキシコ
系のファストフード店でタコ
スを注文しようとしたが、
全く店員さんの言っていることが
が分からず、カナダに着いて早
速大きな壁にぶつかり、これか
ら大丈夫なのかと不安になりま
した。

しかし次の日に、寮の近くの
サッカーコートで、単語とジエ

A black and white portrait of a young man with dark hair, wearing a dark suit jacket, a light-colored shirt, and a patterned tie. He is looking slightly to his right with a neutral expression. A microphone is positioned in front of him on the right side of the frame.

情報システム学科2年
西脇 賢吾

つてのこれから人生を変えるものでした。彼らが教えてくれた全てに感謝しています。

A black and white photograph showing four women in professional attire (three in blazers) gathered in a hallway. They are looking towards a whiteboard or poster on a wall that features some text and small images. Each woman is holding a small rectangular card or piece of paper. The setting appears to be an office or a professional event.

日本人は無口でした。しかし、單語や文法などの筆記のテストをするときも、日本人の方が点数が良くて、「單語、文法が分かってないのに、なんで俺よりも英語しゃべれるんだ?」と、疑問に思いました。このカナダでの授業の環境のおかげで、留学に行く前よりも、自分の意見を言えるようになります。少しは積極的になれただけで、英語ではないかと感じています。英語でコミュニケーションをとる自信がつき、異文化を肌で感じ、海外を身近に感じることができ、一生の思い出に残る素晴らしい経験ができました。この経験を、から的人生に生かしたいです。

スチャードを駆使して遊びの輪に飛び込んでいき、なんとかユニークーションをとつて楽しむ。サッカーをすることができました。この経験が自信になり、その後は、街で道を聞いたり、おいしい店を聞いたりできるようになりました。カナダでの英語の授業は、4人バラバラにクラス分けされました。最初は英語ばかり飛び交つて友達もいなくて、分からぬことだらけでしたが、韓国人や中国人、アラビア人々など優しくて、とても助けてもらいました。授業は、コミュニケーションに重点が置かれ、先生が言つて分からぬことには生徒が進んで質問し、会話しながら授業が進むことが多かつたのです。しかし、日本人は自ら質問しないのに対し、外国人はどうん質問したり意見を言つたりするので、すごい頭いいんだろうなと思いました。

OPEN CAMPUS 2012

オープンキャンパス



お問い合わせ先 新潟国際情報大学 入試・広報課 TEL950-2292 新潟市西区みずき野3-1-1 TEL025-239-3111 FAX025-239-3690 E-mail nyushikouho@nuijs.ac.jp

高校生はじめどなたでもご参加できます!

- 学科およびカリキュラム説明
 - 入試情報説明
 - 入試問題の傾向と対策
 - 模擬議義
 - コンピュータ実習
 - 語学体験
 - 個別入試相談
 - 就職相談
 - 海外留学相談
 - 学生との懇談
 - 学見学
 - 保護者向けプログラム

開催日	1 回目 7/22日 AM 10:30~PM 3:30	2 回目 8/5日 AM 10:30~PM 3:30	3 回目 9/9日 AM 10:30~PM 2:00
会場	新潟国際情報大学 本校		
	※変更となる場合もありますので事前にご確認ください。		
	新潟市西区みすき野3-1-1 (JR越後赤塚駅下車 徒歩7分)		
参加お申込み	高校の進路指導の先生、もしくは下記までお申込みください。		

〈卒業にあたって〉

短かった4年間、多くの宝物に感謝

ついに社会へと出でていく時がきました。私は、4月から株式会社新潟県農協電算センターで働くことになります。世界的に不景気である今、非常に大変なときになります。社会へ出ていくことになり、期待と不安でいっぱいです。

大学生活を振り返ってみると、あつという間の4年であったと思います。今思ふと、時間が多くのある学生のうちにやつておけばよかつたなと思うことがあります。正直後悔していることが多くあります。

在学生や新生には、後悔することなく大学生活を送ってほしいと思います。そのためには、「何のために

この大学を卒業するにあたり4年間を振り返り、思い出に残っているのはやはりアメリカ留学です。この留学からいろいろなことを学びました。英語力は努力次第で向上しますが、アメリカでの生活様式や人種差別、戦争に対する考え方の違いなど、日本に居てはとても得られないような経験をしました。この留学では、外国からの視点で日本を見つめることができました。もちろんアメリカで過ごした4ヵ月間、一緒に過ごした11人の仲間、ESLの友達は一生の宝物です。

3年生になり、就職活動が待っていました。就職氷

瑞波祭実行委員会、環境研究部NUISEco、国際交流インストラクターなど多くの団体に所属して活動してきた学生生活。「勉強さえできればいい」と思ひ入学した頃からは想像ができないくらい、この4年間は私に多くのものを与えてくれました。

尊敬する恩師、応援してくれた教職員の方々、頼れる先輩と後輩、信頼できる友人、一緒にばかり騒ぎできる仲間、その全てはこの大

学に来たからこそ得られた私の宝物です。そして「この大学に来て良かった」と心から思い、卒業できる事の誇りに思っています。そんなすてきな出会いを提供してくれたこの大学

厳しい時代、期待と不安でいっぱい

情報システム学科 高橋 裕貴

に大学入ったのか」ということを自分なりにしつかりと考えてほしいと思います。目的もなく、ただ時間を浪費していると、貴重な大学生活は矢のように過ぎ去ってしまいます。目的を持ち、それを達成するためにしっかりと行動していれば充実した日々を過ごすことができるのではないかと思います。

社会に出ると時間に縛られ、自分の思うように過すことができません。4年という時間は長いようで非常に短いです。大学生活を悔いの残らないように過してください。

河期といわれ、なかなか内定が得られないといった時代ですが、自分のやりたいことに絞りすぎず、さまざまな職種にも目を向け、自分の視野・可能性を広げてほしいです。

視野広がった貴重なアメリカ留学

情報文化学科 本田 美穂

この4年間から、何か出来事が起これば時代が動き、応じてルールは変化し、新しい軸が生まれる。その変化に敏感になり、流れをつかみ取らなければならぬと人生は一度きりです。これから先どんな人生にしたいのか、もう一度考え直したいです。

に、感謝の意を込めて開催した第3回瑞波祭は、頼もしい仲間に支えられ、学科、学年、教職員、在学生、卒業生の壁を乗り越えた交流を提供するイベントとして大成功を収めることができました。

最後に、大好きなこの大学に対してお願いがありま

す。瑞波祭の開催を通して、リスクを恐れ過ぎる大学側の姿勢を感じました。一人

でも多くの人が「この大学に来て良かった」と思えるようなイベントを生み続ける大学であるように、今後は新しい取り組みに対して寛容になり、学生の無謀なチャレンジであっても温かく見守ってくれることを願っています。

教員の活動 (2011年下半期・本人申告による)

熊谷 卓(情報文化学科准教授)

- (2011年9月)小寺はか編著『国際法判例百選』有斐閣『対テロ戦争』へのジュネーヴ諸条約の適用ハムダン事件(224-225ページ)
- (2011年12月)『Jessup 2012 国際法模擬裁判大会』の書面裁判官を務める

前号に誤植がありましたので再掲載します。

近山 英輔(情報システム学科准教授)

- (2011年9月26-27日)バイオスーパーコンピューティングサマースクール2011実行委員(淡路夢舞台国際会議場)

湧源
ゆうげん
編集後記に代えて

広報委員長 桑原 悟

「五流でも私立...」テレビから聞こえてきた小学校受験ビジネスの経営者の言葉である。私が小学生のころ、私立小に行くのは、相当な富裕層の子どもであり、自分には縁のない、その意味もよく理解できない選択肢であった。

しかし、この経営者の話では、最近の首都圏の公立小学校(国立を除く)では、学級崩壊が広がり、普通の子どもが普通に勉強できる環境が減っており、(まともな)子ども自身もその保護者も、その対応に相当の時間と精神的労力を強いられるのだそうである。

また、ある公立小学校の校長は「最近は入学者の一割がこの種の問題を抱えて入学していく」と言っている。首都圏での現象はやがて地方に広がり、そしてその世代が大学生になるわけである。そうなると大学は、18歳人口の減少、入学者の学力低下に加えて、また新たな難題と直面することになる。

本学は、この3月で累計4381人の卒業生を世に出し、4月に300人の新入生を迎えた。これまでの、そしてこれから卒業生や彼らが活躍する地域のためにも、本学の継続と発展は使命である。知恵を絞り大胆な舵取りが必要となる。

(これまで2年間の広報委員長の任期は満了、新体制にバトンタッチし

卒業式



新潟国際情報大学長
平山 征夫

困難に挑戦する勇気を持つて

本日、ここに新潟国際情報大学の第15回卒業式を迎え、まず初めに卒業式を迎えた卒業生の皆さんに「おめでとう」と心からお祝いを申し上げたいと思います。また、ご父母の皆さんにも併せてお祝いを申し上げます。皆さんには本日、お子さまの方の卒業の日を大きな喜びとともにお迎えのことだと思います。またご臨席いただきましたご来賓の方々にも御礼申し上げます。新潟国際情報大学の役員、教職員一同を代表いたしまして、皆さんにお祝いと御礼のご挨拶を申し上げます。

卒業生の皆さんには今大きな喜びとたくさんの思い出を胸にこの式に臨んでいることと思います。4年前、皆さんは大きな希望に心弾ませ本学に入学してきました。それから4年の歳月が流れました。みずき野のキャンパスで自然に囲まれ、友人との友情を深め、先生方の温かい指導のもと勉学に励み、有意義な大学生生活を送つてきました。でも苦しいこと、悩むことも多かつたでしょう。今はその思い出でいっぱいのことと思います。こうした大学生活の思い出は、皆さんの最も輝いていた青春の記念碑と必ずやなります。

実の社会は、就職活動でいやというほど感じたと思いますが、相当厳しい状況にありますし、しかも長期に続くと思われます。ちょうど1年前に発生した「3・11東日本大震災」からの復興が思うようには進まないうえ、福島原発事故はいまだに放射能から推移せざるを得ません。また、世界経済もギリシャを中心とする「国家信用危機」が依然収まらず、むしろ問題解決の難しさを際立たせています。人間の欲望の暴走が招いたリスクともいえるこの危機から脱出とは、問題が単なる欧州諸国の経済変動問題ではなく、現代社会が執ってきた「資本主義」というシステム、競争により成長を促し豊かになろうという社会システムそのものが崩壊したことを意味しているともいえるだけに解決は容易ではありません。そんな経済・社会の中に皆さんは乗り出してゆくのです。

特に本年も昨年に引き続き就職を希望しながら、未就職のまま社会に出てゆく卒業生がおられるることは、極めて遺憾であり残念であります。大学としましては、就職支

大学で学んだことは社会人になつてすぐ
に役立つわけでは必ずしもありません。し
かし皆さんのが長い人生で、木の枝が伸び、
葉を茂らせてゆくとき、それを支える木の
根のようにしつかり皆さんを支えてくれる
でしょう。行き詰まつたときも、みずき野
で学んだことが解決の力になつてくれるは
ずです。

今春、みずき野から県立つてゆく情報文
化学科106名、情報システム学科161
名、合計267名の卒業生諸君に「これから
の人生に幸多かれ」とエールを送りま
す。しかし、これから皆さんのが歩みだす現



JABEE認定プログラム

12人に修了証書

日本技術者教育認定機構（JABE）情報システム技術プログラムの修了証書授与式が3月18日、卒業式と同じ会場で行われました。

平成23年度の情報システム技術プログラムを無事修了したのは12人で、学長が一人一人に修了証書を授与し努力をたたえました。

このプログラムはJABEEが認定する教育制度で、修了生は国家資格である「技術士」の第一次試験合格者と同等に扱われ、試験免除の特典が与えられます。また、所定の登録を行うことによって「技術士補」の資格を取得することができます。

これで本学では情報システム学科卒の合わせて93人が修了証書を取得したことになります。

採用体制を強化して臨んだところですが、厳しい結果となりました。未就職の皆さんには、卒業後も極力支援をして参りますので、密接に大学と連絡を取つてください。でも厳しいといってたじろいでいられません。それにいつの時代でも問題の無い時代などありません。私が大学を卒業した時もそうでした。今から45年前、日本経済はいまだ青年のように若々しく、今よりはるかに希望を持ちやすい時代でしたが、その分ずっと貧しかった時代でした。振り返つたとき、悩みや課題を解決してくれたのは「青春」という若さが与えてくれる、困難に挑戦する勇気でした。今ではそのことを懐かしく思い出しますが、すでに若くない私は皆さんを羨望とともにまぶしく今眺めています。でも、いまでも精神だけは皆さんと同じ若者でいたいと思っています。卒業される皆さんに申し上げたいことは、いつまでも青春の夢を持つて、その実現に努力してほしいということです。そして、困難を人のせいにせず、自ら勇気を持つてチャレンジしてほしいのです。人生は誰のものでもなく、自分の人生ですし、自らの足で前を向いて歩いて行くしかないからです。その時、大学で学んだことが、考える

力半鋼する力。実行する力となつて役に立つことでしょう。どうあろうとも最大限努力した結果の人生であれば、納得もゆくし、悔いも無いはずです。厳しいかもしれませんのが「明日からは親や他人や世間に寄り掛かかるな。自分の足でたつて歩け」とまず言いたいと思います。

もうひとつは、「明日からは社会人として勉強をしなさい」ということです。「やつと卒業したのに、また勉強するのか」と言いたいかもしれません、人間一生勉強です。大学で学んだことは必ず長い人生の中で役立つと言いましたが、それは卒業後も勉強を続けることによって發揮されるのです。社会で働きながら、現実の経験からも学ぶのです。実践と理論、体と頭の両方で学ぶのです。そのときは、豊かな感受性、鋭いアンテナを持つて現実の動きから起こっていることを感じ取り、それが意味することの本質を洞察してください。

1週間前、東日本大震災から1年という催しや報道が行われました。あの震災で1万5千名を上回る方が亡くなり、3千名以上の方がいまだ行方不明のままであります。あらためて今回の震災の被害の大きさを感じるとともに、1年という歳月の経過でも人々

を踏み出します。いつの時代にも、人生思

い通りいかないものではあります、厳しい就職活動を強いられ、現在も大変苦労されている諸君がいることを思うと正直胸が痛みます。本学としてもできる限りの支援体制をとつて参ります。卒業後もご遠慮なくご相談ください。

私は皆さんに実社会に出るにあたつて「働く」ということ、「何のために仕事をするのか」ということを今一度考えてほし

卒業生答辞



(総代)情報システム学科
石山 たまみ

いと思います。

「自分が生きるため」、「家族を養うため」、「趣味など楽しい暮らしを送るため」にお金を稼ぐ。生活の基盤を確立するにはこうしたことを第1と考えるのが普通しかし、人間、単に給料をもらうために働くのでしょうか。あるいは、「周りに認めてもらう」ために働くのでしょうか。「出世して地位や名誉を手に入れる」そ

のように、充実した大学生活を送ることができました。

私は、高校時代にプログラミングと出会い、専門知識を学び、より実践的なスキルを身につけるため本学へ入学しました。しかし1年生のころは専門的な科目がないため、JABEE取得と奨学金獲得を目指とし、手当たり次第に講義を履修していました。今考えると、情報技術に関するだけではなく哲学や政治学などを広く学ぶことで、偏りの無い考え方ができるようになります。また最初は主に勉学に励んでいましたが、2年時に経験したカナダ留学が転機となり、私の大学生活はより活発なものとなりました。もともと休日は家で静かに過ごすことが多かったのですが、カナダで連日のように出かけていたことが習慣となり、日本に戻ってきてからも家を飛び出して精力的に活動をするようになります。ある時はサークルの飲み会、ある時は友人たちとの語り合い、研究室にも足しげく通い、一年のほとんどを大学で過ごしました。私たちを卒業まで支えてくださった全ての方々に、卒業生を代表して厚く御礼申し上げます。

時の流れは早いもので、4年前、期待と豪雪にみまわれた今年の冬も終わりを迎え、だんだんと暖かい日差しが届くようになりました。春の訪れが、私たちに新しい生活の始まりを告げています。

本日は私たち卒業生のために、このよくな盛大な式を挙げていただき、心より感謝しております。大勢の方が見守る中、私を含め、267名が晴れて卒業することとなりました。私たちを卒業まで支えてくださった全ての方々に、卒業生を代表して厚く御礼申し上げます。

不安に胸を高鳴らせ、新潟国際情報大学に入学したことが昨日のことのように思い出されます。勉強についていけるか、友人ができるかと、心配していた最初のころが嘘

れも一つの生き方でしょう。しかし、私が皆さんに一番伝えたい、そして心がけてほしいのは「一生懸命努力し、一つ一つの仕事を成し遂げ仲間と喜びを分かち合う」そして、その積み重ねが自分自身の幸せや、職場や地域社会への貢献につながる。そんな人生を目指していただきたいと思いま

す。そのためには、ぜひとも「仕事」を好きになつて、生涯を通じて打ち込める「仕事」を持つ、生きる喜びを感じとつてください。「これ以外自分の役割はない」と感じれば苦労は苦労でなくなります。つらく厳しい環境に置かれることがあると思いますが、がむしゃらに働くことで、その経験が血となり肉となり、それが「人間の底力」となります。以上、私のささやかな人生観の一端を述べさせてもらいました。

皆さんは、それぞれの教育課程を修得されましたが、これからは日々社会人としての基礎力を身につけ、高めていかなければなりません。いろいろな局面での人と人、人間同士のぶつかり合いが若い皆さんを育ててくれると思います。

「学生の本分は学問である」とはよく聞く言葉ですが、4年間を振り返り私が思うことは「交友の場を広げること」もとても今も心に深く刻まれています。

「学生の本分は学問である」とはよく聞く言葉ですが、4年間を振り返り私が思うことは「交友の場を広げること」もとても重要で、得た人脈は何ものにも代え難いほど大切であるということです。この大学で、心から尊敬できる恩師、信頼できる親友たちに出会えたことは、何よりも私の人生の中で大きな財産となつたと確信しております。

私たちにはこれから、新しい生活へと進んでいくこととなります。楽しい事ばかりでなく、つらく苦しい事も多いでしょう。そんな時は、大学生活で身に付けた多面的に考える力と、力になつてくれる友人たちを頼りに乗り越えていきたいと思います。

最後になりましたが、ご指導を賜りました教員の皆さん、今まで温かく見守り支えてくれた家族、多くの苦楽を共にした友人たち、その全ての方々に心より感謝致します。本日ご臨席の皆さんのご健康、後輩の皆さんのご活躍、並びに新潟国際情報大学のさらなる発展を願い、私の答辞とさせていただきます。

祝電

順不同

新潟県知事

新潟市長

日本私立大学協会

新潟綜合警備保障株式会社

代表取締役社長

株式会社マリイ 代表取締役

清水辰雄様

事」を持つ、生きる喜びを感じとつてください。「これ以外自分の役割はない」と感じれば苦労は苦労でなくなります。つらく厳しい環境に置かれることがあると思いますが、がむしゃらに働くことで、その経験が血となり肉となり、それが「人間の底力」となります。以上、私のささやかな人生観の一端を述べさせてもらいました。

皆さんは、それぞれの教育課程を修得されましたが、これからは日々社会人としての基礎力を身につけ、高めていかなければなりません。いろいろな局面での人と人、人間同士のぶつかり合いが若い皆さんを育ててくれると思います。

少子高齢化のなかで私ども地域社会に期待される高等教育機関として存在し続けられるため学校法人、全教職員を挙げていつそうの精進をしてまいる所存です。ご卒業される皆さんにとって誇りうる母校であり続けるよう新潟国際情報大学も懸命に努力してまいります。

これから時代、地球規模でグローバル化がいつそう進みます。変化のスピードも一段と速くなっています。卒業式を迎えた皆さんは、日本の文化と伝統を大切にすると同時に、多様化する世界にもしっかりと目を向けて、それぞれの目標、目的の実現を目指してご奮闘ください。

皆さまの明るい前途を願い、ご健康を祈念し、私の祝辞といたします。

泉田裕彦様

篠田 昭様

大沼 淳様

平成23年度卒業式



267人晴れやかに羽ばたく

平成23年度(第15回)卒業式が3月18日、新潟市民芸術文化会館(りゅーとぴあ)コンサートホールで行われ、267人(情報文化学科106人、情報システム学科161人)の卒業生が、決意新たに社会へ羽ばたいていきました。

式典では先ず卒業生全員が名前を呼ばれ起立し、両学科代表に学位記授与と記念品が平山征夫学長から贈られました。平山学長は式辞で「厳しい時代だか

らこそ、青春という若さと困難に挑戦する勇気でチャレンジして夢を実現してほしい。背筋を伸ばしてキリッとして生きて次の時代を刻み、前途洋洋たる詩人茨木のり子の作品「歳月」を紹介しました。

引き続いて夕方には、恒例の祝賀会がANAクラウンプラザホテル新潟で開かれ、晴れやかな笑顔いっぱいの卒業生とゼミの教職員などが乾杯や記念撮影を繰り返しながら、別れを惜しみ互いの健闘を誓い合つていきました。

背筋を伸ばして 次の時代を刻もう

樂部の演奏で校歌「空がある風がある光がある」を歌

上がり、吹奏

これに対し、卒業生代表の情報システム学科・石山たまみさんが「情報技術だけでなく哲学も政治学も留学も経験し多くの学び、多くの友達と絆を深めることができました。この大きな財産を力にして新しい生活に進んでいきます」と力強く答辭を述べました。最後に卒業生と教職員と会場の父母も全員が立ち

厳しい環境だからこそチャレンジを

第15回までの卒業生は合計4,381人に

年 度	卒業者数	情報文化学科	情報システム学科
平成9年度(第1回)	295人	116人	179人
10年度(第2回)	290人	124人	166人
11年度(第3回)	303人	126人	177人
12年度(第4回)	294人	114人	180人
13年度(第5回)	291人	118人	173人
14年度(第6回)	277人	111人	166人
15年度(第7回)	314人	118人	196人
16年度(第8回)	294人	115人	179人
17年度(第9回)	299人	121人	178人
18年度(第10回)	278人	110人	168人
19年度(第11回)	312人	126人	186人
20年度(第12回)	285人	117人	168人
21年度(第13回)	267人	105人	162人
22年度(第14回)	310人	117人	193人
23年度(第15回)	272人	110人	162人
合 計	4,381人	1,748人	2,633人

*9月卒業生含む

学長賞(学業成績優秀者)

情報文化学科

情報システム学科(総代)

石山たまみ

学術賞

情報文化学科

藤崎貴行

情報文化学科

星希美

情報文化学科

家老里奈

情報文化学科

齋藤和也

情報文化学科

竹ノ内佑太

情報文化学科

早川純也

情報文化学科

丸山貴大

情報文化学科

蓑和諒

情報文化学科

馬場彬

情報文化学科

井澤有太

情報文化学科

高橋大

情報文化学科

斎藤和也

情報文化学科

竹ノ内佑太

情報文化学科

羽鳥将史

情報文化学科

早川純也

情報文化学科

丸山貴大

情報文化学科

蓑和諒

情報文化学科

馬場彬

情報文化学科

内野駅前商店街のシャツターハウスを防ぎ、若者を呼び戻し、地元商店の良さをアピールすることを目的として、地域の皆さんと協働で、空き店舗を利用した「日喫茶店」を開業し、地元の味を広めるなど、地域との交流に貢献した。

平成23年度

卒業生特別表彰